

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立 唐津商業高等学校定時制
1 前年度 評価結果の概要	① 学業面では教職員が生徒に寄り添いながら基礎学力の向上を目指し、個別指導等を根気強く重ね、生徒もその指導に応えようとする姿勢が見られた。 ② 生徒会活動も生徒主体で積極的に行われるようになった。生徒たちの居場所の確保にも繋がり、自己有用感を持つことができる生徒が増えた。 ③ 卒業後の進路については生徒が不安を抱えないように、キャリア教育の一層の促進と進路決定に向けた学校の組織的な取り組みが必要である。 ④ 外部講師による食の指導や全職員による給食摂取の呼びかけを通して、徐々に喫食率の向上が見られたが、目標数値までには至らなかった。
2 学校教育目標	生徒一人ひとりの能力を伸ばし、幅広い知識と教養を身に付けさせるとともに、ビジネスの確かな知識と技能を習得させ、地域社会や経済社会の発展に寄与できる、心量で心身ともに逞しい人材を育成する。
3 本年度の重点目標	① 基礎学力の向上を図るため、基礎学力とは何かを明らかにし、わかる授業を実践する。 ② 教科・科目等の学習にとどまらず、資格試験や検定試験についても積極的に挑戦させる。 ③ 基礎的・汎用的能力の育成や職業観・勤労観の涵養を目指し、キャリア教育を充実させるとともに、アルバイト等への就労を推奨する。 ④ 社会人として必要な規範意識を育てるとともに、ルールやマナーを順守する態度を養う。 ⑤ 望ましい食習慣を養うことで心身ともに健康な生徒を育成するため、食育の充実に努める。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎的な文字力・計算力の定着	○文字力テスト、計算力テストを年間各7回実施	・漢字テストについては4級レベルから準2級レベルまでの漢字の意味を理解し、会話や文章の中で適切に使う能力を養わせる。 ・計算力テストについては個別指導も含め、基礎的数学技能を身に付けられるように指導する。	B	・文字力テスト、計算力テストとも計画通り実施できた。今年度は欠席・遅刻等でテストを受けていない生徒が増加した。また、努力が不足していると思われる生徒が数名見られた。両テストは就職試験等にも役立つ内容が多いので意識づけの面でも指導していきたい。	B	・意識の違いの大きい生徒たちを1つの教室内で指導するのは大変だと思う。 ・引き続き細かな指導をお願いしたい。	教務主任 各教科主任 各担任
	○資格取得の奨励と合格率の向上	○検定試験を積極的に受験するよう促し、卒業までに簿記、ビジネス情報、情報処理の3つの検定試験で3級以上の取得率80%以上	・生徒の資格取得に対する意欲を喚起するために個別指導を充実させ、さらに実力に応じて上位級受験に対応できるように指導体制を整える。 ・資格取得による進路希望実現の道を示す。 ・受験するからには必ず合格するという意識をもたせるため周到な指導計画を立案する。	A	・簿記検定については、昨年度1月の検定試験で不合格の生徒に対して指導を行い、3級以上取得者の数が増加した。ビジネス文書では1級合格者2名、2級合格者4名、電卓検定では1級合格者2名、2級合格者3名となった。 ・4年生の検定試験(簿記、電卓、ビジネス文書)3種目の3級以上取得率は8割以上となった。	A	・検定試験のための授業ではなく、社会に出てからの必要性を指導していただきたい。	教務主任 各教科主任 各担任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自然と挨拶を交わせる生徒を85%以上	・登下校時を中心に教員側から挨拶だけでなく、声かけを積極的にに行い、人とのふれあいの楽しさを伝え、生徒間に浸透させる。	A	・年間を通して、教員側からの積極的な声かけを登校時にほぼ毎日行った。また、各種集会や講演会などでも挨拶の徹底を呼びかけ、85%以上の生徒が自然と挨拶が出来るようになった。	A	・教頭先生の毎日の校門での挨拶運動を評価する。 ・取組を継続してほしい。	生徒指導主事 各担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止への取組について組織的に対応できていると回答した教員90%以上	・いじめ防止基本方針を見直し、保護者へ周知をする。 ・いじめ対応に関する研修・会議を年間2回以上行う。 ・生徒情報交換会を月に1回以上実施し、職員間で情報共有をする。	A	・生徒状況については、通年で情報交換を行い、生徒の変化を全職員で見守る体制は十分であり、100%の職員が組織的に対応できていると回答している。教育相談生徒研修に教員も参加し、自己の性格について客観視し、他者とのようなコミュニケーションをとるとよいのかなど学ぶことができた。	A	・母親代わりの保健主事に期待する。	保健主事 教育相談係 各担任
	◎志を高める教育	◎年度末のアンケートで「佐賀県や地元を誇りや愛着を感じる」と回答する生徒85%以上	・郷土学習資料「佐賀語」を活用し、生徒が佐賀や地元への興味を持つ契機となるように指導する。 ・各学年、郷土について学ぶ時間を年間3時間(前期2時間、後期1時間)講演会)実施する。	・「佐賀語」のプリントは、取り組む生徒と取り組まない生徒との差がでてしまった。「明治のインベーター大隈重信」の視聴の際に、番組にあわせたプリントを作成し、プリントに記入しながら視聴したため、内容を深めることができた。 ・年度末の「佐賀に愛着を感じるか」のアンケートでは、「ある」が60%、「どちらかというところ」が40%で、「ない」と答えた者は一人もいなかった。	A	・「佐賀語」のプリントは、取り組む生徒と取り組まない生徒との差がでてしまった。「明治のインベーター大隈重信」の視聴の際に、番組にあわせたプリントを作成し、プリントに記入しながら視聴したため、内容を深めることができた。 ・年度末の「佐賀に愛着を感じるか」のアンケートでは、「ある」が60%、「どちらかというところ」が40%で、「ない」と答えた者は一人もいなかった。	A	・唐津出身と誇れる郷土学習をお願いしたい。 ・佐賀を誇りに思う教育推進事業係
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	○十分な睡眠がとれている生徒50%以上 ○食前の手洗い習慣が身に付いた生徒90%以上 ○自分で健康だと感じる生徒70%以上	・基本的な生活習慣状況等調査や新しい生活様式定着度調査を実施する。 ・保健だよりや掲示物で啓発する。 ・保健指導を実施する。	B	・5月と12月にアンケートを実施。「十分な睡眠がとれている」と回答した生徒は12月の集計では43%と50%には満たなかった。特に1年生においてアルバイトを始め生活習慣の変化があり、朝7時までに起床する生徒が増加していた。食前の手洗い習慣は79%が習慣化。健康だと感じる生徒は5月よりも低下し、62%程度であった。	B	・生活習慣は学校より家庭での教育だと思う。親を交えての指導をお願いしたい。	保健主事 養護教諭
	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○給食の喫食率75%以上	・給食だよりを発行する。 ・統計を基に、各月や各学期の喫食率の結果を周知し、意識付けをする。 ・教科等と連携して、食と健康に関する内容を取り扱い、指導する。	B	・年間を通して給食だより等発行し、給食指導を給食時間に行った。後期のHR活動では、外部講師による食の指導を行い、生徒たちは調理実習に興味を示していた。卒業生を対象に「リクエストメニュー」を実施した。継続的に全職員と連携して給食摂取の呼びかけを行い、徐々に喫食率の向上が見られたが、32.6%と目標には至らなかった。今後も継続して指導をしていきたい。	B	・原因を掘り下げて分析、改善をしていただきたい。 ・栄養職員・保健主事の奮闘している姿は見取れる。 ・リクエストメニュー等、食を楽しみとする方法を考えてほしい。	学校栄養職員 保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1ヶ月80時間以下)の遵守	・学校閉庁日を設定する。 ・出退勤管理システムをこまめに点検し、観察を行い、定時出退勤を呼びかける。	A	・時間外在校等時間は月平均7時間5分と、教育委員会規則に掲げる上限を大幅に下回っており、定時出退勤が実践できている。	A	・現状を評価する。 ・継続してほしい。	管理職
	○職員会議の効率化	○会議の効率化による職員会議の回数(年8回)維持及び各回の時間短縮	・年間計画による回数の設定、資料の事前配付、及び日常の職員間のコミュニケーションを綿密にすることで、会議の効率化を図る。	A	・職員会議の回数は1月末まで9回と目標より多くなったが、資料の事前配布等により会議時間は毎回30分程度と、効率化を実現できている。	A	・現状を評価する。	管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路指導の充実	○職業観・勤労観の育成 ○キャリア教育の充実と希望進路の実現	○アルバイトの就労率80%以上 ○卒業予定者の希望進路決定率100%	・学年進行でキャリア教育を充実させる。 ・生徒の就労先訪問を行い、雇用主と連携して、定着指導を行う。	B	・卒業予定者の進路についてはアルバイト継続を含め、100%決定し、キャリア教育の充実を図ってきた。 ・アルバイトについては、年間を通して勤務態度は良好であると評価されているが、アルバイトと学校との両立が厳しい生徒が複数名いるので、今後の指導が必要である。	B	・唐津商業高校出身の市会議員が2名いる。うまく活用していただきたい。	進路指導主事
5 総合評価・次年度への展望	・資格試験や検定試験には積極的に挑戦する姿勢が見られ、一定の成果を上げることができたが、基礎学力の定着には後ろ向きな生徒が多く、粘り強い指導の必要性を感じている。 ・望ましい生活習慣や食習慣の形成には課題が残る。日頃の声かけや講演会・配布物などで内発的動機を触発する取組を継続し、健康意識や喫食率の向上に努めていきたい。 ・生徒指導やキャリア教育の充実をはかることで、社会的規範意識や就労意識には向上が見られた。次年度以降も生徒一人ひとりの進路希望実現のために職員全員で丁寧な指導を心がけたい。							

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育